

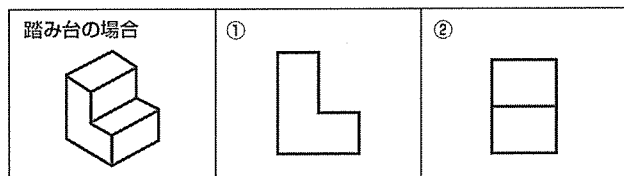
032 六面図の描き方

六面図は意匠出願図面の基本です。描き方をしっかりと勉強しましょう。

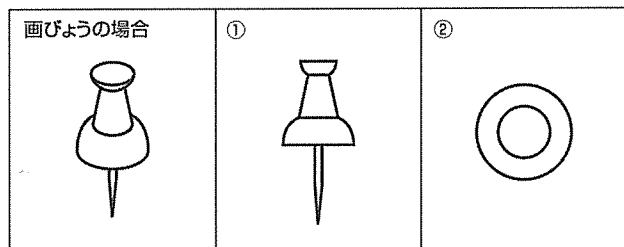
正面図の決め方

正面図は物品の形状が1番わかりやすい面、機能がわかりやすい面を正面図として描きます。だから、意匠の図面、特許の図面を例に取っても、対象物の特徴が最もわかりやすく表れている面を「正面図」として描きます。

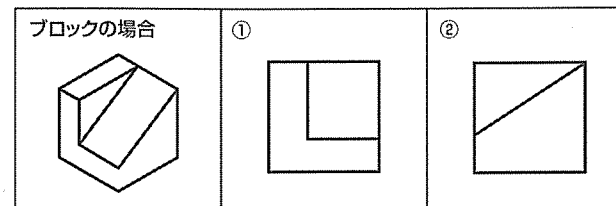
しかし、物によっては、どの面を「正面図」として描けばいいか悩むときがあるかもしれません。そのときは、表面積が1番広い面を「正面図」として描くようにすればいいでしょう。



踏み台の場合、どちらでもよさそうです。



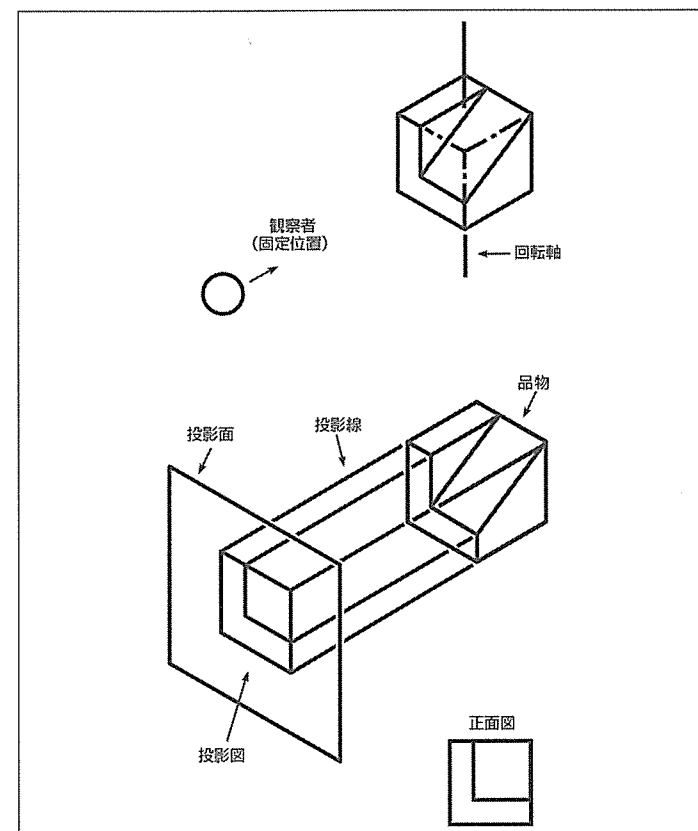
画びょうの場合は、①の図面が正面図にベストだといえますね。それでは、六面図の描き方の解説で使うブロックの場合は、どうでしょうか。



どちらでも問題なさそうですが、今回は①の図面を正面図として、六面図の描き方を解説していきます。さあ、それでは始めましょう。

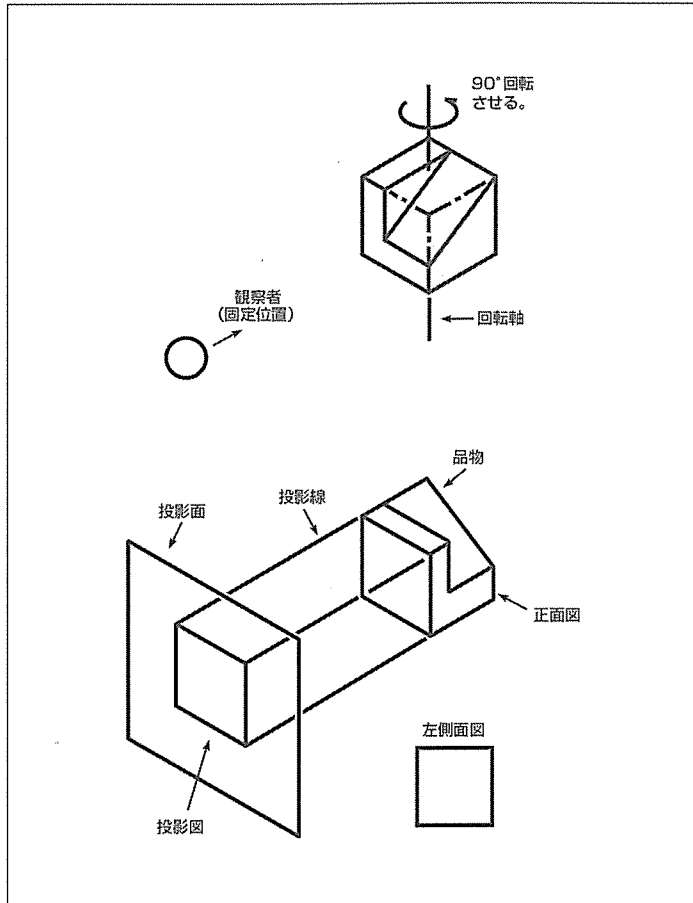
正面図の描き方

ブロックに対して観察者の視点から見たこの図を、正面図とします。



左側面図の描き方

正面図から向かって左側の面、つまり、右に90度回転させた面が左側面図です。



右側面図の描き方

正面図から向かって右側の面、つまり、左に90度回転させた面が右側面図です。

